

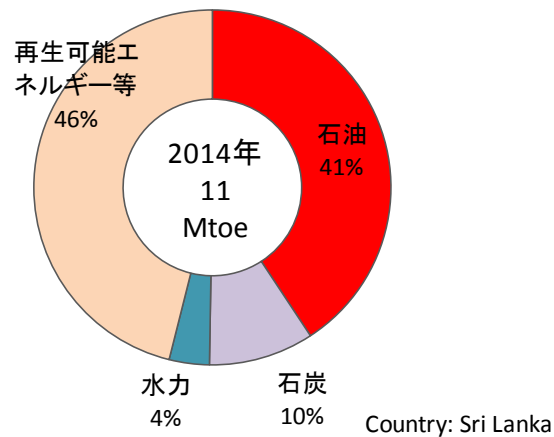
1-20 スリランカ

1. サマリー

1. エネルギー事情

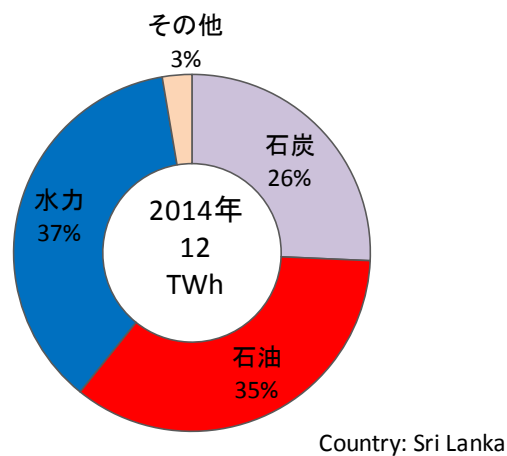
- (1) 一次エネルギー供給量 (2014年) : 11 百万 toe (日本の 0.03 倍)
- (2) 一人当たりの一次エネルギー供給量 (2014年) : 0.52toe (日本の 0.15 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2014年) : 50%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 16.7 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 1.4%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2014年) : 0.81 CO₂ 換算 ton (日本の 8.7%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2015 年末) : 該当なし

一次エネルギー供給構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

発電電力量構成 (2014 年)



(出所) World Energy Balances 2016, IEA

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 電力エネルギー省 (Ministry of Power and Energy) がスリランカ全土の電力、エネルギー計画の策定および管理を担う。

(2) 基本政策

- 2015年3月に公表された「Sri Lanka Energy Sector Development Plan for a Knowledge-based Economy 2015-2025」では、エネルギーセキュリティに重点を置き、2030年までにエネルギーを100%自国で賄うとしている。
- 目標実現に向けて、重点的に取り組む8つの分野を設定し、それぞれに戦略と具体的なプログラムを掲げている。

(3) 最近の動向

- 2015年1月、大統領選挙で親中国路線の軌道修正を訴えた Sirisena 新大統領が就任。新政権では過度の中国依存を修正し、インドや欧米、日本などとの関係強化を図る全方位外交を目指す。
- 2015年2月、Sirisena 大統領がインドを訪問。Modi 首相と会談し、二国間の原子力平和利用協力協定を締結。
- 2015年3月、Sirisena 大統領が中国を訪問。習近平国家主席、李克強首相と相次いで会談し、中国からのインフラ投資など経済関係の強化で一致。
- 2016年5月、Sirisena 大統領とインド Modi 首相との首脳会談で、インドがスリランカに建設する発電所について、燃料を石炭から LNG に変更することで合意。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 2014年9月、安倍首相がスリランカを訪問。Rajapaksa 大統領と首脳会談では、日本が得意とする高効率石炭火力発電の導入を進める方針で両首脳が一致。
- 2015年6月、スリランカの Samaraweera 外務大臣が日本を訪問。岸田外務大臣と会談し円借款「全国送配電網整備・効率化計画」に関する書簡の交換が行われた。本事業については2015年8月、JICAが249.3億円を限度とする円借款貸付契約を調印。
- 2015年10月、Wickremesinghe 首相が日本を訪問。安倍首相、主要閣僚と会談を行い、「日・スリランカ包括的パートナーシップに関する共同宣言」を発表。日本企業誘致のために投資環境整備を図ることなどで合意。
- 2016年5月、安倍首相は来日した Sirisena 大統領と初の首脳会談を実施。全国送配電網整備等で総額約380億円の円借款を供与することを表明したほか、Colombo 港およびその周辺開発等に官民一体となって取り組む旨述べた。

2. 主要エネルギー指標

COUNTRY: Sri Lanka

(2014年)

(1) 一次エネルギー供給量		11 Mtoe
(2) 一人当たりの一次エネルギー供給		0.52 toe/人
(3) GDP当たりの一次エネルギー供給		0.15 toe/千ドル
(4) エネルギー自給率		50 %
(5) エネルギー起源CO ₂ 排出量		16.7 百万CO ₂ 換算ton
(6) 一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量		0.81 CO ₂ 換算ton/人
(7) エネルギー源別構成率	石炭	10 %
	石油	41 %
	天然ガス	41 %
	原子力	0 %
	水力	4 %
	再生可能エネルギー等	46 %
(8) エネルギーの輸入依存度		50 %
(9) 石油の輸入依存度		100 %
(10) 輸入原油の中東依存度		- %
(11) 原油の輸入先	第1位	-
	第2位	-
	第3位	-

(出所) (1)～(4)および(7)～(9) : World Energy Balances 2016, IEA

(5)～(6) : CO₂ Emissions from Fuel Combustion 2016, IEA